

宇宙安全保障部会 議事要旨

<目 次>

第 7 回	宇宙安全保障部会	議事要旨	・ ・ ・ ・ ・	P2
第 8 回	宇宙安全保障部会	議事要旨	・ ・ ・ ・ ・	P4
第 9 回	宇宙安全保障部会	議事要旨	・ ・ ・ ・ ・	P6

第7回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

平成27年10月7日(水) 16:00~18:00

2. 場所

内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、片岡部会長代理、青木委員、折木委員、久保委員、白坂委員、鈴木委員、仁藤委員、山川委員

(2) 事務局

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙安全保障に関する工程表改訂について

9月25日の宇宙政策委員会です承された「宇宙基本計画工程表改訂に向けた進め方」(資料1)について、事務局より説明を行った。その後、同委員会です承された「宇宙基本計画工程表改訂における方向性」(資料2)の「宇宙安全保障部会における工程表改定作業で検討すべき論点」等について、中須賀部会長より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の質問があった。(以下、○質問、●事務局の回答)

○年末の工程表の改訂のイメージはどのようなものになるのか。

●現在の工程表に対して所要の見直しを行った「工程表(平成27年度改訂)」及び、主な改訂内容や達成事項・進捗状況等を取りまとめた付属文書を作成する予定である。

(2) 日米包括対話について

「宇宙に関する包括的日米対話第3回会合の結果概要」(資料3)について、事務局より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員等から以下の質問・意見等があった。(以下、○質問・意見等、●事務局等の回答等)

●米国は、宇宙の民生面、安全保障面の幅広い議題を扱う「包括対話」の場を、日本とのみ有している。また、今回の包括対話には、キャロライン・ケネディ駐日米国大使が出席されており、米国の日米宇宙協力への強い期待が示されている。

○海洋状況把握(MDA)に関して、米国は日本に対してどのような要望を持っているのか。

●米国からは、MDAにおいて日本が何をしたいのかについて問われているところであり、現状、米国から日本に対して具体的な要望がなされている訳ではない。

○宇宙システムの抗たん性については、米国から日米協力に対する強い期待が示されている。一方で、宇宙アセットを多く運用している米国と日本とでは考えるべき抗たん性の概念が異なる筈であり、「宇宙システム全体の抗たん性強化」を検討する際には、日本としての考え方をしっかり整理すべきである。

(3) その他

その他の議題として、「平成 28 年度概算要求における宇宙関係予算」について、事務局より説明を行った。

以 上

第8回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

平成27年10月22日（木） 10:00～12:00

2. 場所

内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、片岡部会長代理、青木委員、折木委員、久保委員、白坂委員、仁藤委員、名和委員、山川委員

(2) 事務局

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙安全保障に関する工程表改訂について

参考資料1から4に基づき、事務局より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の意見等があった。(以下、○意見等、●事務局の回答)

○情報収集衛星について、時間軸多様化衛星を整備するとなれば、さらに相応の予算が必要となるため、今後とも議論していくべきである。

○先進光学・レーダー衛星やアスナロについて、安全保障上のニーズについても、よく考慮して開発・運用すべきである。

○海洋状況把握(MDA)に係る施策について、ニーズの把握に基づくアプローチも重要ではないか。

●安全保障の観点からMDAをどう捉えるのかについて、よく整理しつつ、取り組んで参りたい。

○JAXAと防衛省との連携強化について、各種衛星等の安全保障分野への利用を図る等のため、定期的な会合を持つことも有益ではないか。

○宇宙に係る将来の技術研究開発が、相互に重複せず、効率的に進められるよう、各施策の横串を通した、統一的な検討も必要ではないか。

○今の宇宙基本計画は諸外国からも注目されているので、宇宙システム全体の抗たん性強化などについては、対外的な説明の仕方についても、よく検討する必要がある。

以 上

第9回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

平成27年11月5日（木） 10:40～11:40

2. 場所

内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、青木委員、折木委員、久保委員、白坂委員、仁藤委員、山川委員

(2) 事務局

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、
内丸宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 情報収集衛星について

資料に基づき、内閣情報調査室から説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の意見等があった。（以下、○意見等）

○内閣衛星情報センターが、関係省庁と緊密にコミュニケーションをとりながら、ユーザーニーズの反映に努めており、評価できる。

○情報収集衛星には様々なニーズがあるが、例えば自衛隊を含む関係機関の活動に、より直接的に寄与するような活用方法等についても、今後、関係省庁間で検討される事を期待する。

○情報収集衛星の施策の推進にあたり、ユーザーニーズを、今後、順次開発する衛星の仕様にも反映して欲しい。

○情報収集衛星を開発する過程で培われた技術が、日本の科学や産業の分野の発展に寄与するよう、十分に検討して欲しい。

(2) 宇宙安全保障に関する工程表改訂について

参考資料に基づき、事務局より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の意見等があった。(以下、○意見等)

○我が国の宇宙産業の維持強化のため、宇宙産業ビジョン（仮称）を示すことは重要である。宇宙活動法に係る検討を取り掛かりとして、着実に検討を進めていく必要がある。

宇宙安全保障部会としての宇宙基本計画工程表改定案の取りまとめについては、今後、部会長預かりとして調整を進めることとなった。

以 上